

J E T 参加者の作る情報誌 ～ 福岡県 J E T 作成「The Refill」の紹介 ～

JET プログラムで世界各地から招致された約 4,400 名の参加者たちは、日本全国各地で語学指導や国際交流活動に活躍しています。彼らは、配属された地域の住民として、その地域に溶け込んで暮らしています。地域ごとに、独自で Newsletter などを作成し、参加者同士の情報交換を行っている例が少なくありません。県などで取りまとめ業務の一環として作成するものや、AJET の支部活動として作成するものなど、その形態は様々ですが、そこからは、日本の地域住民となった外国の青年の視点が読み取れます。

そんな情報誌の中から今回は、福岡県内の現役 JET 参加者たちが、個人としてボランティアで作成しているウェブ・マガジン「The Refill」を紹介します。内容は、日常の些細な出来事に関するエッセイから、JET の意義に関する考察まで、硬軟取り混ぜられています。オールカラーで 30 ページ以上の内容があり、書店に置いてあってもおかしくないほどの見事な出来映えです。彼らの目を通した日本を感じてみてください。

Fukuoka JET Newsletter “ The Refill ”

<http://www.fukuokajet.com/the-refill>

この雑誌の仕掛け人は、福岡県教育委員会に勤務している 3 年目の現役 ALT Rebekah Randle さん。彼女にこの雑誌に関して聞いてみました。

なぜこの雑誌を発行しようと思ったのですか？

「福岡県内の他の参加者たちがどんな経験をしているかを自分自身が知りたかったからです。他県の Newsletter を見て、福岡県でも同じことができればいいなと考えました。」

雑誌の名前「The Refill」の由来は？

「福岡ラーメンの伝統的文化“ 替え玉 ”からとっています。残ったスープに新しい替え玉が入るように、新しい情報を加えていきたいという思いでつけました。」

どうやって記事を集めているのですか？

「直接頼んでいます。」 さん、休暇で旅行に行ったそうだけど、そのこと書いてくれない？」「学校で英語専攻だったそうだけど、記事に書いてもらえない？」といった具合です。たくさんの人に話しかけて、メールでフォローするのがポイントです。」

反響はいかがでしたか？

「好意的な反響ばかりです。これでやっと福岡県にも Newsletter ができた、予算がないのによくぞ実現した、福岡県の JET に共同体意識を持たせてくれるものだ、といった声をいただきました。」

彼女の努力に拍手を送りたいと思います。

